

社員を巻き込んだ企業の将来ビジョンの検討

企業概要

株式会社西村商事

【代表者名】代表取締役 西村 直樹
 【業種】ビルメンテナンス業
 【所在地】愛媛県松山市
 【設立】昭和41年11月
 【資本金】1,000万円



■ 支援に至る経緯

将来的な会社の方向性やビジョンの策定に向けた支援を受けることに

一般事業者や官公庁に対して、ビルメンテナンス・廃棄物収集運搬・マンション管理を行っており、業歴60年弱を有している。

慢性的な人手不足や人件費の高騰等の業界を取り巻く外部環境もあり、将来的なデジタル化・業務改善のため、社内体制・制度設計につなげることを見据えて模索していたところ、取引金融機関から、愛媛県事業である「CONNECT えひめ」のスキームによるコンサルティング支援の紹介を受け、経営計画や目標の策定につなげるための検討を行うこととなった。



■ 支援の内容

事前アンケートにより意見収集した上で、社員参加のワークショップによりアイデアを出し合い、会社のありたい姿を具現化

検討にあたっては、コンサルティング会社から、数ある課題から真の課題を適切に設定することが必要であるとの助言のもと、整理のためのフレームワークを活用し、まずは、将来の自社の「ありたい姿」を具体化し、現状とのギャップを明確にするところから開始した。

具体的には、企業が果たしていくべき使命や、組織としての理想像や中長期的な目標を達成するための具体的な行動指標となるミッション・ビジョン・バリューの詳細を定義した。

また、将来の「ありたい姿」を具体化していく過程では、今後の社内浸透を図るべく、社員を対象としたアンケートを通して「働きやすい環境」などの意見を収集した上で、社員を巻き込んだワークショップを開催し、様々なアイデアを出し合った。



ワークショップでの検討内容も反映させつつ、将来的な「ありたい姿」を確定させた上で、実現に向けて必要となる施策案の検討や目標となるKPIを設定し、年度ごとに取り組んでいくべき事項をロードマップに取りまとめを行い、経営計画に反映させることとした。



■ 支援の効果

自社の現状をしっかりと把握できたことで、今後に向けた課題やありたい姿が明確に

ワークショップを通じて、社員一人ひとりが、改めて自分の会社に向き合い、強みや弱み、置かれた現状などを再確認した上で、将来のありたい姿を考える良い機会となった。また、日頃、お互いの考えていることを出し合うことを通じて、社員同士の相互理解の促進にもつながった。

■ 今後の展開

社内・社外に対して、策定した将来ビジョンを発信し定着させることを目指す

支援終了後、本支援で策定した将来のありたい姿をもとに、検討内容を活かして中期経営計画を策定していく予定であり、更なる事業拡大に取り組んでいく方針である。



支援を受けた 事業者の声

弊社の売上に対する人件費比率は約70%と高く、最低賃金の上昇に伴う人件費増と正社員の賃上げに対応するには、毎年のようにお客様に値上げをお願いしなければなりません。そのためには、デジタル化による業務改善や新しいサービスの構築が必要だと感じていました。

今回の支援を通じて、経営理念と「働きやすい職場」について社員と真剣に考え、ありたい姿を達成するための事業計画を策定することが出来ました。視界が一気に開けました。

また、これまで必要性は感じていても高齢の社員が多い職種では、正直デジタル化は難しいなと感じていました。

ところが、同業他社の事例を紹介していただくことで弱気になっていた私の後押しをしていただきました。

道のりは長く困難ですが、社員との対話を進め、関わる全ての人から西村商事で本当に良かったと思っていただけるよう、1つずつ取り組んでいこうと思います。



代表取締役 西村 直樹